

第20回単位PTA会長会… 2～3

第57回日本PTA東北ブロック
研究大会仙台大会…………… 4～5

PTAかわら版…………… 6～7

第73回日本PTA全国研究大会
石川大会に参加して…………… 8

編集後記…………… 8

会員の絆深まるPTA運動会

大崎市PTA連合会では、令和7年8月2日（土）、昨年に引き続きPTA運動会を開催いたしました。バレーボールやニュースポーツなど、その種目を変えてきたこの会員交流事業も、今年はなんとボウリング大会！

各チーム6名による学校対抗戦で、応募のあった計14チームのプレイヤーのほか、子どもや応援を含めると100名以上が一堂に会し、ボウリング場を貸し切って盛大に開催をいたしました。

マイボールやマイシューズを持参の方にはハンディを課し、女性の方には得点に30点を加算するなどオリジナルのルールを決め、2ゲームの平均スコアで順位を競いました。

ストライクやスペアを取った際には、チームのみんなでハイタッチやグータッチなど、各所でお決まりの光景も垣間見ることができ、会員の絆を更に深める楽しい企画となりました。

参加者の募集を始めてから、子どもを誘って度々練習に行く方々の姿を拝見し、家族とのコミュニケーションや、地元施設の活性化にも少なからず貢献できたのではないかと感じております。

通信員 伊藤 伸浩



第20回

単位PTA会長会



あいさつをする平吹淳会長

令和7年7月12日（土）にホテルニュー水戸屋において記念すべき第20回単位PTA会長会が県内の会長を一堂に会し開催されました。

あいさつの中で平吹淳会長は、近年、生活様式の多様化やここ数年の新型コロナウイルス感染拡大防止のための施策等の影響もあつて、人と人とのコミュニケーションも希薄となり、子どもたちの教育環境をはじめ、私たちのPTA活動にも大きな影響がでており、これらは学校だけで解決できる問題ではなく、まさに家庭教育にも関わる問題であり、学校と保護者がこれまでに以上に協力して解決しなければならぬことと考えると、単位PTAの役割はますます重要になってくると話されました。

基調講演

「これからのPTAの在り方について」

宮城県PTA連合会顧問 浅野直美氏から『これからのPTAの在り方について』講演をいただきました。



講演をする浅野直美顧問

宮城県PTA連合会顧問 浅野直美氏から『これからのPTAの在り方について』講演をいただきました。顧問でもある浅野氏の講演はご自身が関わった多種多様な事例を通しながらのお話で、今後の地域活動及びPTA活動はどうあるべきかを考えさせられるものでした。

講演内容はPTAの歴史から始まり戦後80年もの間、趣旨はさほど変わらず、子どもの健やかな協働力を育み、保護者と教員が同等の立場であることなど理解を深めることができました。

また会長とはリーダーシップを発揮し実行すること、一人で抱えずに仲間に関与を与えることなどのあるべき姿を学び、PTAを不要と思う方たちの話も聞きながら、教職員と保護者との橋渡し役という重要なポジションにいることを実感しました。効果はすぐには表れるものではありません。多様な家庭環境・地域に対応する組織を目指し、それぞれの地域に合わせた活動を地道に、できる範囲で行い、大変だったけれどやってよかったと思えることが大切だということを教えていただきました。

調査広報委員 佐藤 桂

グループトーク



コーディネーター
PTA連合会 畑山和晴副会長

宮城県PTA連合会畑山和晴副会長のコーディネートにより、指名されたグループのトークン代表者が登壇し、それぞれのグループで話し合われた内容を発表しました。

その中で、PTA役員の負担軽減については、PTA事業の削減やデジタル化などを進めた結果、一定の評価をいただいたが、一方では学校活動に活気がなくなつたように感じているとの意見がありました。

また、地域連携については、運動会前に地域の方々に草刈りをご協力いただいた



グループトークン代表者

っている学校もあると報告がありました。

教員との関わり方については、コロナ禍や働き方改革により先生方とのコミュニケーションも減

っている。顔の見える関係にあるというのは大切ではないだろうか。良好な人間関係を築くためには、対面でこそ共感できると思うなどの意見がありました。

コロナ禍以降、各校の会長が集まり、PTA活動について語り合う機会が無かったため、どのグループもこれまで心に留めていた教育に対する意見が活発に、より熱く語られ、非常に有意義な情報交換会となりました。

調査広報委員長 湯山 栄大

グループトークの様子





第57回日本PTA東北ブロック研究大会

仙台大会 令和7年 9月13日(土) 14日(日)

仙台で織りなす「未来」 ～居場所を創るS.D.G.sプロジェクト～

令和7年9月13日(土)では、仙台国際センター展示棟において5つの分科会が、14日(日)には東北大学百年記念会館川内萩ホールで全体会が開催されました。

開会行事のアトラクションとして東日本大震災で被災・閉校した仙台市立東六郷小学校で「特色のある教育活動」の一環として取り組まれている六郷くろしお太鼓応援隊による「くろしお太鼓」の迫力あるパフォーマンス、シンガーソングライター伊藤洋平氏と仙台市内小・中学生を中心としたスペシャル合唱団による曲目『優しさの色の歌』『花は咲く』の心温まる合唱とともに全体会が始まりました。

東北ブロックPTA協議会大曾根学会長の主催者あいさつとして、仙台市は古くから「学都」と称され、教育文化の根付くまちでもあり、変化の激しい現代においては、人と人の心のつながりを改めて見つめ直し、子どもから大人まで、誰もが安心して自分らしく過ごせる居場所の求める第一歩を仙台の地で見つけ出していただくと願っておりました。

記念講演では東北大学准教授、細田千尋氏による『脳の発達から考える教育と子どものウェルビーイング～

自分で未来を切り開く力を育む～』をテーマに講演をしていただきました。ウェルビーイングとは身体的、精神的、社会的にも満たされている持続的な充実感。また一人ひとり異なり、いろいろな要素から形づくられているもの。子ども時代に信頼できる人との繋がりが多く大人になっても自己効力感が高いということをお話されていました。

最後に次期開催地である秋田大会へ。そして仙台を拠点に活動する5つのプロスポーツチームキッズチアによる元気いっぱいの笑顔と力強いダンスで熱いエールを送り、未来への想いをひとつにしてくれました。



主催者あいさつをする東北ブロックPTA協議会大曾根学会長

開会行事

第1分科会 組織運営

第1分科会では、『新たな社会に向けた施策を踏まえたPTA組織～現実と仮想を生きる子どもたちのために～』をテーマに、高谷将宏氏よりSociety5.0の実現に向けた教育政策や、その政策等に対するPTA組織の在り方について講演をしていただきました。

Society5.0とは、仮想空間と現実空間を融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立していこうとする未来社会のコンセプトであり、望む情報だけを探す今までの社会から、たくさん提供される情報の中から、自ら必要とする情報を取捨選択していかなければならない時代がくる中、これからの子どもたちは、溢れる情報を自分自身で選択できる力を養っていく必要がある。現実より仮想空間の方が楽しい、価値があると感じる社会において、現実空間での実体験を通して現実社会の価値をより高めていかなければならない。そのためには、家庭、学校、地域を取り巻き、現実社会での様々な体験を提供していく事がPTAとして重要であると話されました。

後半では、この前段の話を踏まえて、PTAとして今後どのような対応が求められるのか、3人のパネリストによってディスカッションが行われました。宮城県PTA連合会副会長畑山和晴氏は、大人の都合で子どもの成長を妨げてはならない。子どものウェルビーイングに焦点を当て、本来のPTAの在り方として、「子どもを中心にした支援」を行うべきである。家庭・学校・地域が協働して支え合う新しい「共創の場」として、今の時代のニーズに合わせた進化が必要である。地域を巻き込み、地域の方々と関わりを持つことによって、子どもたちもコミュニケーションや地域の大切さ、現実空間の重要性を感じることができると熱く語られました。

調査広報委員 伊藤 伸浩



パネリスト

宮城県PTA連合会副会長 畑山 和晴氏

特別分科会 人権教育

第1部の基調講演では、明星大学教育学部教授である星山麻木氏より、『心をついに、笑顔咲き誇る、一人ひとりが輝く未来へ～みんな違って、みんないい。個性が輝く共生社会のために～』をテーマにご講演いただきました。

星山氏は発達障害について、少数派、多数派、「グレーゾーン」と分類するのではなく、一人ひとりを素敵な子どもとして認め、「虹色なこどもたち」という表現をされていました。

そして、個々の中には多様な特性があるということ、を、「虹色」に例えて説明されました。ASD、ADHDの特徴的な傾向を7色で示し、そのどれか一つに当てはまるのではなく、いくつもの色が混ざり合っている存在なのだと。一人ひとり異なった色であることを尊重することによって、子どもは輝き、生きやすくなっていくのだとお話しされました。

第2部のパネルディスカッションでは、宮城県PTA連合会副会長齋藤勇介氏がパネリストとなり、子どもが生きていく上で居場所があることは不可欠であると述べられました。

子どもがありがたのまを受け入れてもらえる環境、ありがたのまの自分を受け入れてもらえるという実感があってこそ、そこに足を運びたくなるのだと。一人ではない、見守られているという安心感のある環境の中であってこそ、信頼感が生まれ、さらに自己肯定感が高まることで、色々な人と繋がってみようと思える。この様な積み重ねが、多様な人たちの気持ちを受け止める土台となるのだと話されました。

最後に、子どもたちの笑顔が、私たち保護者の笑顔を育て、そして親子の笑顔に繋がり、さらに地域の笑顔に繋がっていく。そのような活動を今後も展開していきたいと、熱い思いを語られました。

調査広報委員長 湯山 栄大



パネリスト

宮城県PTA連合会副会長 齋藤 勇介氏

かわら板

塩竈市

塩竈市PTAの特色ある活動紹介

通信員 鈴木 晶晴

各校揃いのTシャツや法被などを着た子どもたちがパレードに登場して踊る姿やPTAの熱い応援は大変見応えがあります。
市民の皆さんの前で、各校の子どもたちが考えたオリジナルの振り付けや工夫を凝らした演出を披露することにより、地域の伝統的な祭りを児童・保護者・教員で盛り上げる姿は大変頼もしく、塩竈ならではの特色あるPTA活動となっています。



日本三大船祭りであり、塩竈市の三大祭りの一つでもある「塩竈みなと祭」が今年も海の日に盛大に開催されました。
前夜祭の花火大会は令和7年7月20日(日)、本祭の神輿海上渡御や陸上パレードは令和7年7月21日(月)に行われました。陸上パレードでは、毎年、市内の小中学生たちが「よしこの塩竈」という踊りを披露します。
児童とPTAが一緒に活動できる唯一のお祭りです。

栗原市

地域と共に

通信員 門脇 淳

栗原市立瀬峰小学校では、栗原中央病院宮野峻輔医師を招き教育講演会を開催しました。

演題は『やる気を生み出す生活習慣「できた」を生み出す学習方法』として自身の子育てエピソードや、医学的な話等をユーモアあふれる内容で講演していただき、会場は終始笑顔あふれる講演会となりました。

栗原市PTA連合会では、年度内に「地区セミナー」として本間ちゃんこと本間秋彦氏を講師に招き、子育てについての講演会や、気仙沼PTA連合会との交流事業を予定しています。





PTA

登米市

つながる親子の輪
～登米市PTA連合会の取り組み～

通信員 石川 悟

登米市PTA連合会では、令和7年度のニュースポーツ体験会において、新たに子どもたちの参加を取り入れました。これまで大人だけで実施していたイベントに、親子で参加できる形を取り入れたことで、「ドッチビー」や「モルック」といったニュースポーツを通じ、親子と一緒に楽しむ姿が見られました。子どもたちにとっては新しいスポーツを学ぶ機会となり、保護者にとっても子どもたちとの交流を深める貴重な時間となりました。



さらに、毎年恒例の「パワーアップ講演会」も今年度開催予定で、子育てや教育に関する学びを地域全体で共有していきます。登米市PTA連合会では、これからも親子で楽しむ活動を通じて、地域全体で子どもたちを支えていきます。



白石市内から車で5分ほど国道4号線を南下すると私たちの子どもたちが通う白石市立大平小学校があります。大平小学校父母教師会でも、コロナ禍による空白期間を埋めることはなかなか難しく、無理をせず進めてきました。単P活動の定番、夏休み明けの除草奉仕作業は保護者同士のつながりを再構築する良い機会です。昨年は、親子レクレーションを12月に実施し好評のうちに終わりました。今年も実施予定です。保護者も子どもも先生方もひとつになって楽しむ活動を進めていきます。

白石・刈田地区

親子がひとつになった
活動を目指して

通信員 半沢 健太

岩沼市

ふたきまつり+（プラス）

通信員 鎌田 潤一

岩沼小学校PTAによる活動をご紹介します。岩沼小学校PTAの活動の一環として、2024年11月に保護者と教職員が協力し、子どもたちが楽しめるお祭り「ふたきまつり+（プラス）」を開催しました。（当校では同様のイベントは2019年を最後に行っていませんでした。）本部事業として体操着のリユースが話の始まりでしたが、「せっかくなら食べ物も出そう」「ゲームもあると楽しいのでは」といった意見が集まり、規模が次第に大きくなり、本格的なお祭りイベントとなりました。

当日は、フランクフルト、玉こんにゃく、チョコカップバナナなどの出店や、射的、カタヌキ、お菓子つかみといったゲームコーナー、そして体操着のリユース、金管バンド演奏等、保護者と教職員でアイデアを出し合い、準備・運営を行いました。

5年ぶりということで、手探りの状態での準備となりましたが、子どもたちも保護者も大いに楽しめました。

保護者から「今年度も開催しますか？ぜひお手伝いしたいです」との嬉しい声も寄せられており、今年も11月に開催します。





報 告

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>
☎022-295-9581・9590

第73回日本PTA全国研究大会 石川大会に参加して

第73回日本PTA全国研究大会石川大会が令和7年8月22日（金）23日（土）、『サステナブルな未来づくりのために～創造と協働を石川から～』を大会テーマに掲げ、石川県内各地を会場に盛大に開催されました。

令和6年には、石川県能登半島北部を中心に元日に震災、9月には豪雨と未曾有の災害が発生し、多くの方々が今なお早期の復旧・復興を願い日々の生活を歩まれています。大会テーマに込められた、大人が予測できない変化の中でもサステナブル（持続可能）な未来を描きたいという想いは、災害を経た今だからこそより強く石川の地からPTAを通した支え合いの心やつながりの大切さが発信されたのではないのでしょうか。



全体会 ステージ

PTA組織に対する不要論などが聞こえる昨今ではありますが、日々の活動を通じた地域や学校との連携などPTA活動の本質を再度認識し、未来に向けて今何をおこなって行くべきかを改めて見つめ直す時間になったと感じています。

分科会では、「家庭教育」「学校教育」「地域連携」「人権教育」「広報活動」「今日的課題」について、8つの分科会に分かれてそれぞれに学びを深めて来ました。私の参加した「人権教育」の分科会では、多様性の視点からLGBTQ当事者、支援者、当事者の保護者という立場からの視座と提案がなされ、親として、人として、自身の日々の何気ない発言などを振り返りながら多様性の本質を考える機会となり、深い学びを得る事が出来ました。

全体会では、各会場がライブビューイングでつながり、アトラクションの「加賀とびはしご登り」では、演技を通じて未来を担う子どもたちに郷土愛、伝統文

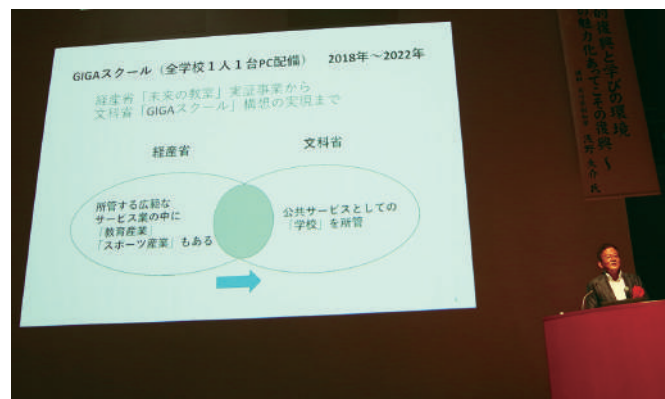
化と技が伝承されて未来につながっていく様子を目の当たりにし、記念公演では『能登の創造的復興と学びの環境～学習環境の魅力化あってこそその復興～』と題し、講師に石川県副知事の浅野大介氏を迎え、講師自身が2019年当時、経産省の立場から文科省とともに「GIGAスクール」を推進した頃に構想した「未来の教室」の姿、本当に変わり始めた学校の今、小さな街で進む教育環境の魅力化の話を中心に先を見据えた未来志向の示唆に富んだ話を聞くことが出来、これまでの歩みが未来につながる視点を得ることが出来ました。

大変有意義な学びを得ることが出来た二日間。サステナブルな未来づくりのために、PTA活動の意義と可能性を再確認しつつ、この学びを今後の活動につなげていきたいと思います。

調査広報担当副会長 齋藤 勇介



講師 浅野大介副知事



記念講演

編集後記

今号の発行にあたり、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。コロナ禍が明け、各地で少しずつしばらくぶりの活動が行われたことなどが聞こえています。

また、活動内容などを見直すなど新しい時代に入っていることも感じられます。社会情勢や各家庭環境など考えさせられることもたくさんありますが、子どもたちの成長を支える日々の営みなど紙面を通してお届けしながら、未来を担う子どもたちとの思い出づくりのお手伝いをしていければと思います。

調査広報委員 半沢 健太



環境に配慮した用紙・
インクを使用しています。

P T Aみやぎ第197号 令和7年11月28日発行
発行所／宮城県P T A連合会・印刷／有限会社 南郷印刷